

社団法人私立大学情報教育協会
第6回 CCC 国際関係学グループ運営委員会議事概要

- I. 日時：2010年2月1日（月）午前11時～午後1時
II. 場所：社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者：委員（多賀、大崎、林）、事務局（事務局長、井端、森下、恩田）

本日の議題

①国際関係学における情報教育について（継続）

「政治学グループの情報教育」を参考に国際関係学における情報教育について、具体的にその内容を検討、一次案を作成した。

・その際、共通教育や演習教育期間も含めた学部在学中の4年間を期間として考えることが確認された。

・委員より、外国語資料、当事者資料など一次資料を使用することで、多角的な視野が得られることが指摘された。

・委員より、大講義・中講義・ゼミなど小単位の演習それぞれについて、それぞれの到達度の確認基準が必要なことが指摘された。

・事務局より、学生によって生み出されたアイデアやプレゼンテーションは、ネットワークによって発信され、学生が世界に直接関与する機会を作るべきだ。そのためにはまず教員が率先して社会に政策研究の成果を発表すべきとの指摘があった。

②今後のスケジュールについて

今後学士力については、私情協の事業の中で継続と展開を考える。

最後に委員より、大学教員はその考えを社会に伝播させていく使命がある。

今後は大学の社会への発進力が必要とされる時代がやってくる。また、講義は、

これまでの講師一人対学生という形式ではなく、何人もの

スタッフが携わるエンタープライズだという発想から進めていく方がよいとの指摘が成された。

次回委員会

次回委員会開催については、6月頃行私情協より連絡があり行われることになった。

国際関係学の情報教育

到達目標1

国際的な事象・課題について、適切な情報の収集・整理ができる。

到達度

- ① 国際関係論に関する情報の所在・構成・背景を知っている。
- ② 情報の信頼性を識別でき、情報の引用に関する倫理を身に付けている。

- ③ 情報検索とソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)などの基本的な情報処理能力を身に付けている。

教育内容・教育方法

- ①は、多角的な視点から、実際に Web にアクセスさせて、国際関係を理解する映像・画像・ファクトデータなどの重要性を理解させる。
- ②は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる。
- ③は、初年次教育、共通教育などで培った基礎的なスキルを国際関係の授業に応じて使用させ、レベルアップを図る。

到達度確認の測定方法

- ①から③は、教育・学習支援システムなどにより、レポート、小テストなどで確認する。

到達目標2

収集した情報を分析し、課題の実証、問題の発見に役立てることができる。

到達度

- ① 目的に沿ってデータの比較、対照、処理ができる。
- ② 多様な情報(意味づけされたもの)の比較、分析ができる。

教育内容・教育方法

- ①と②は、講義などにより、映像・画像・ファクトデータを含む一次情報の分析手法を提示し、課題の検証・発見を自ら体験させる。

到達度確認の測定方法

- ①と②は、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。

到達目標3

コミュニケーションに情報通信技術を活用し、発表することができる。

到達度

- ① コミュニケーションの内容・対象に応じて、適切なメディアを選択できる。
- ② マルチメディアを活用して意見発表し、他者との意見交換の中で持論を見直すことができる。

教育内容・教育方法

- ①は、演習などにより、課題研究の成果を適切なメディアを通じて国際的に発信させる。
- ②は、マルチメディアによる報告と議論を通じ、課題に対する理解を深め、新たな問題発見を促す。

到達度確認の測定方法

- ①と②は、プレゼンテーション、論文などにより確認する。